

No1 1

下野市立石橋中学校



校長室だより

スローガン ~生徒も先生も、自ら輝く学校~

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和6年1月9日(火)
発行者 田熊利光



橋中ホームページQRコード

新年明けましておめでとうございます！

みなさん、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

まず、石川県を中心とする地域で起きた大地震と津波により、被害に遭われ今も困難に直面している方々へ心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々へ謹んで哀悼の意を表します。

さて、2024年は、甲辰（きのえたつ）です。陰陽五行説によると「甲」は草木の生長を表す意味があり、植物が生長するようにどんどん勢いを増していくという意味があります。そのため2024年辰年は、昨年まで努力してきたことが実を結んで成就する年になると言われています。みなさん一人一人の目標が達成されるように、今年も努力を惜しまず頑張りましょう。

3rd Sは、一年間の総まとめの時期です。大きな行事としては、2年生の立志記念スキー学習があります。2年生は大人になるための「心構え」を作りましょう。「志」をもてると素晴らしいと思います。最後は、石中最大の行事である「卒業式」を全校生徒で創り上げましょう。3年生は、今までの頑張りを振り返り、支えてくださった方々への感謝と共に、後輩に魂のバトンを引き継いでください。後輩の皆さんは、3年生への感謝と「これからは自分たちがより良い石中を創造するんだ！」という決意を表してください。期待しています。

冬休み前の放送集会「校長講話」より

皆が幸せになるために、人として成長するために大切な言葉を紹介しました。解説を付け加えて掲載しますので、今後の学校生活に役立ててください。

一、己の欲せざるところ人に施すことなかれ(孔子の言葉)

「自分が嫌だと思うことを人にしてはいけません。言ってはいけません。」という意味です。今、世界で起きている争いも、孔子の言葉を心から理解していればなくなるはずで、私たちが集団で生活する上で大切にすべき、最も基本的な教えだと思います。

二、過ちて改めざる之を過ちと言ふ(孔子の言葉)

人間は失敗する生き物です。誰だって過ちを犯します。大切なのは、その後だということです。「自分が失敗や間違いに気づいた時に、それを素直に認め反省しないことこそ本当の過ちなのだ。」と孔子は弟子たちに教えました。自分の過ちを謙虚に認められる人は成長できます。他者からの「信頼」という宝物も得られます。言い訳をして、ごまかそうとする人は、成長できません。結局、他者からの「信頼」も失うことになります。

三、因果応報

「善い行いをすれば、自分に善いことが返ってくる。悪い行いをすれば、自分にも悪いことが返ってくる。」これは仏教の教えですが、教育そのものだと思います。互いを思いやり善い行いをすることの大切さを教えてくれる言葉です。

「情けは人のためならず」→ 人に優しくすると、結局自分にも優しさが返ってくる。自分も得するという意味のことわざです。他人の過ちを許すという「寛容さ」も大切であるという意味も含まれると思います。

四、成長・進歩とは、今の自分ではダメだと自己否定することである。

ダメな原因・うまくいかない原因を環境や他者のせいにする人は成長・進歩しません。自分のダメな所と向き合うことは、苦痛も伴うため、たいていの人は、他人のせいにしてがちです。しかし、私たちが成長・進歩するためには、自分のダメな所を認める勇気と謙虚さが欠かせません。自分はまだまだと常に努力する姿勢を大切にしましょう。大谷選手は、メジャーでホームラン王になった今でも、「自分はまだまだ野球がうけないので、もっと努力したいです。」と言っています。本当にすごい人ですね。

五、美点凝視

人のあら探し、欠点探しからは、悲しみや憎しみなど、マイナスのことしか起こりません。だから、人の良い所・美点に目を向けましょう！そして、それを伝え合ひましょう。皆が温かい気持ちになり、心から元気が湧いてきます。自然に、助け合い支え合う温かい仲間になれる。たくさん「ありがとう」を見つければ、感謝の心が自然に湧いてきます。それが人が幸せに生きる道だと思います。

石橋消防署 意見発表表彰式

1月17日(金)に石橋消防署において、防火に関する意見発表会が行われました。石橋中学校からは、2年生の熊倉海璃さんが学校代表として発表しました。とても素晴らしい発表で、聞いていた消防士の方もきっと嬉しかったと思います。

「これからも続く私たちと火」

下野市立石橋中学校 2年 熊倉 海璃

「火事」という言葉は大昔から存在し、数多くの命を奪ってきました。そんな恐怖から我々の身を守ってくれる消防士の方々が今もなお、私たちが普通の日常を送ることができるように仕事をしてきています。私は小学生の時、地域のイベントで、たくさんの消防士の方々とふれ合い、そこで学んだことがあります。

「消防士という仕事に対して、最も大切な力は、いかに皆様の命を守るかを決める判断力です。ですが、皆様は火の後始末をするだけで、大切な人の命を救うことができます。その小さな判断だけでも命を救うことができるのです。」

この生々しい言葉を聞いて、私はこれまでどれだけ火事に対して他人事で、自分は安全と錯覚していたのかを思い知らされました。

また、私は火災を再現した煙体験にも家族で参加しました。そこでイベントの終わりに質問の時間があり、消防士の方に「人の命を守る」意味を尋ねました。消防士の方は「常日頃から命の尊さや星の数だけある命の重みを肩に乗せているんだよ。」と仰っていました。自分の仕事に対してこれだけの誇りをもって働く消防士の方々がとてもかっこよく見えました。この言葉は中学生になった今でも忘れられません。

だからこそ、その尊い命を守るためには、消防士の方々だけでなく、消防士と私たち地域住民との協力が必要だと考えます。私はその協力関係を築く行動として、私があの時から今でも続けている火の元を確認していく、指さし確認を心がけるようにしています。

また、コンセントのほこりをまめに掃除しています。これにはきっかけがあります。それは私の祖父母の家の近所の方が、コンセントのほこりが原因となり、家が全焼してしまった、という話を聞いたからです。ほこりがつまっただけでも、それが火種となり、普通の生活を送ること、幸せを築く家が、そして、その思い出が跡形もなく燃えて、残るのは恐怖だけだと深く心に刻みました。普通の生活を送る幸せが、ガラス細工のように崩れることを知った私は、一つ一つの小さな行動によって、誰かの命を守ることができると信じて、日頃から火災のことを考えることを習慣にしています。

この作文を通して、改めて火災について深く考えると、自分も大切な人や地域のたくさんの人と助け合い、生活していけるのだと思いました。防火に対して、自分ができることを追究し、日々の努力で火災を起こさないことが、地域への貢献だと思います。こうやって、多くの中学生が防火に対して考える機会があることも、発信することも意味のあることだと思います。防火に対する意識が輪となって、多くの人が火災防止のために動き、誰かの命を火災から救ってくれることを私は願っています。そして、大切なものが火によって失われることのない社会の実現を願います。

「栃木県学校給食優良学校表彰」のご報告

12月15日(金)な、栃木県総合文化センターにて、栃木県学校給食優良校の表彰を受けました。これは、栃木県で一校だけに授与されるものです。長年、大島久美子栄養教諭を中心に取り組んできた「食育」の成果が認められたということです。毎日の献立も、地産地消やG7サミットに合わせたメニューなど、様々な工夫を凝らしています。

調理員さんが毎日心を込めて作ってくださる給食も、栃木県一、いや日本一おいしいと思います。

Shimotsuke ENGLISH Forum・市子ども未来プロジェクト活動報告会

12月16日(土)に下野市教育委員会主催で、日頃の英語学習の成果を生かした、英語でのプレゼンテーションと「子ども未来プロジェクト」の発表がありました。石中から2年生の平賀旬さん・森田琉叶さん・池澤凜さん・小楠菜瑠さんが、下野市の良さを英語で発表し、生徒会役員の齋藤風牙さん・渡邊萌香さん、山口咲和さん、藍葉琴未さんが石中で取り組んだいじめ防止の取り組みとして、素敵すぎるよ展、小中合同での取り組みや小中合同クリーン活動について発表しました。先生方からも、素晴らしいかったというお褒めの言葉をいただきました。

第55回 栃木県アンサンブルコンテスト 銀賞受賞!

12月24日(日)に行われた第55回栃木県アンサンブルコンテストで、吹奏楽部員8名、上野志歩子さん、栗林眞子さん、菊地一真さん、杉山華穂さん、星美波さん、梅山恋奈さん、青柳尋斗さん、佐藤邑奈さんによる管楽八重奏「風の詩」で、見事に銀賞を獲得しました。素晴らしい演奏でした。おめでとうございます。

